

平成29年度 長久手市保育認定（2号・3号認定）利用者負担額（保育料）基準額表

【表1】

（単位：円）

階層区分		月額保育料							
		3号（3歳未満児）		2号（3歳児）		2号（4歳児以上）			
		標準時間	短時間	標準時間	短時間	標準時間	短時間		
A	生活保護法（昭和25年法律第144号）による被保護世帯（単給世帯を含む）及び中国残留邦人等の円滑な帰国の促進並びに永住帰国した中国残留邦人等及び特定配偶者の自立支援に関する法律（平成6年法律第30号）による支援給付受給世帯			0		0		0	
B	市町村民税非課税世帯		3,000		2,000		2,000		
C	市町村民税均等割のみ課税世帯（市町村民税所得割非課税世帯）		7,000		6,000		6,000		
D 1	市 町 村 民 税 所 得 割 課 税 額	48,600円未満		10,000	9,800	7,500	7,300	7,500	7,300
D 2		D 2 a 48,600円以上 57,700円未満		13,000	12,700	10,000	9,800	10,000	9,800
		D 2 b 57,700円以上 58,000円未満		13,000	12,700	10,000	9,800	10,000	9,800
D 3		58,000円以上 69,000円未満		16,000	15,700	12,500	12,200	12,500	12,200
D 4		D 4 a 69,000円以上 77,101円未満		22,000	21,600	17,000	16,700	16,000	15,700
		D 4 b 77,101円以上 85,000円未満		22,000	21,600	17,000	16,700	16,000	15,700
D 5		85,000円以上 101,000円未満		28,000	27,500	19,000	18,600	17,500	17,200
D 6		101,000円以上 120,000円未満		34,000	33,400	20,000	19,600	18,000	17,600
D 7		120,000円以上 138,000円未満		39,000	38,300	21,000	20,600	18,500	18,100
D 8		138,000円以上 169,000円未満		44,000	43,200	22,000	21,600	19,000	18,600
D 9		169,000円以上 230,100円未満		49,500	48,600	23,000	22,600	20,000	19,600
D 10	230,100円以上 397,000円未満		52,500	51,600	24,000	23,500	21,000	20,600	
D 11	397,000円以上		55,000	54,000	25,000	24,500	22,000	21,600	

備考

- この基準額表という年齢は、年度当初において達している年齢とする。（年度途中で年齢区分の変更は行わない。）
- この表の階層区分の認定は、4月から8月までは前年度の市町村民税課税額で、9月から翌3月までは当該年度の市町村民税課税額で行う。
- 市町村民税の課税額は、入所児童の属する世帯のうち、入所児童の保護者に係る課税額の合計とする。この場合、市町村民税の額は、地方税法（昭和25年法律第226号）第292条第1項第1号に規定する均等割をいい、また、同項第2号に規定する所得割（この所得割を計算する場合には、住宅借入金等特別税額控除、配当控除、寄付金控除、外国税額控除等を差し引く前の額とする。）をいう。
- この表のB階層に属する世帯のうち、生計を一にする負担額算定基準者でその出生が最も早いものから順に数えて第2番目以降の児童に係る保育料は、この表の規定に関わらず0円とする。
- この表のC階層からD2a階層までに属する世帯のうち、生計を一にする負担額算定基準者でその出生が最も早いものから順に数えて第2番目の児童に係る保育料は、表1に定める額に2分の1を乗じて得た額（10円未満の端数は、切り捨てる。）とし、第3番目以降の児童に係る保育料は、表1にかかわらず0円とする。
- 児童の属する世帯が次に掲げる世帯（以下「ひとり親世帯等」という。）の場合で、B階層からD4a階層に属する世帯のときは、表2に掲げる額とする。
  - 「母子世帯等」 母子及び父子並びに寡婦福祉法（昭和39年法律第129号）第17条及び第31条の7に規定する配偶者のない者で現に児童を扶養しているものの世帯
  - 「在宅障害児（者）のいる世帯」 次に掲げる児（者）を有する世帯をいう。
    - 身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条に定める身体障害者手帳の交付を受けた者
    - 療育手帳制度要綱（昭和48年9月27日厚生省発児第156号）に定める療育手帳の交付を受けた者

- ウ 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律第123号）第45条に定める精神障害者保健福祉手帳の交付を受けた者
- エ 特別児童扶養手当等の支給に関する法律（昭和39年法律第134号）に定める特別児童扶養手当の支給対象児、国民年金法（昭和34年法律第141号）に定める国民年金の障害基礎年金等の受給者
- (3) 「その他の世帯」 保護者の申請に基づき、生活保護法（昭和25年法律第144号）に定める要保護者等特に困窮していると市長が認めた世帯

【表2】

階層区分	月額保育料					
	3号（3歳未満児）		2号（3歳児）		2号（4歳児以上）	
	標準時間	短時間	標準時間	短時間	標準時間	短時間
B又はC	0	0	0	0	0	0
D 1	4,500	4,400	3,250	3,150	3,250	3,150
D 2 a	6,500	6,350	5,000	4,900	5,000	4,900
D 2 b	6,500	6,350	5,000	4,900	5,000	4,900
D 3	8,000	7,850	<u>6,000</u>	<u>6,000</u>	<u>6,000</u>	<u>6,000</u>
D 4 a	<u>9,000</u>	<u>9,000</u>	<u>6,000</u>	<u>6,000</u>	<u>6,000</u>	<u>6,000</u>

- 7 6に該当する世帯のうち、生計を一にする負担額算定基準者でその出生が最も早いものから順に数えて第2番目以降の児童に係る保育料は0円とする。
- 8 4から7に該当する世帯以外の世帯において、同一世帯から2人以上の児童が保育所、幼稚園、認定こども園、特別支援学校幼稚部、情緒障害児短期治療施設通所部等に入所又は児童発達支援又は医療型児童発達支援を利用している場合には、入所児童のうちその出生が最も早いものから順に数えて第2番目の児童に係る基準額は、表1に定める額に2分の1を乗じて得た額（10円未満の端数は、切り捨てる。）とし、第3番目以降の児童に係る基準額は、表1にかかわらず0円とする。
- 9 保護者が児童（18歳に達する日以後の最初の3月31日までの間にある者をいう。）を3人以上（3歳未満児を1人以上含む場合に限る。）監護し、かつ、これらの児童と生計を同じくする場合には、表1にかかわらず、該当児童のうち、その出生の最も早いものから順に数えて第3番目以降の3歳未満児（その児童が年度の途中で満3歳に達した場合においても、その年度中は対象児童とみなす。）に係る基準額は0円とする。
- 10 家庭保育室（スマイルキッズ、パセリ保育室）の利用者負担額は、この表に定める額に10分の6を乗じて得た額（10円未満の端数は、切り捨てる。）とする。ただし、第4項から第9項までの規定に該当する世帯は、第4項から第9項までの規定により算出した額に10分の6を乗じて得た額（10円未満の端数は、切り捨てる。）とする。
- 11 公立保育所で延長保育を利用する児童の属する世帯に係る保育料は、基準額表及び各項の規定により算出した利用者負担額に、次の表の利用区分に応じた延長保育料を加算した額とする。ただし、基準額表のA階層の世帯に属する場合又はB階層からD1階層に属し、ひとり親世帯等に該当する場合は、延長保育料を加算しない。

利用区分	単位	延長保育料
午前7時から午前7時30分まで	1回	100
午後6時30分から午後7時まで	1回	100

【注】

- \* 下線で示した部分は、国の「平成29年度における幼児教育の段階的無償化に向けた取組」に基づき、平成29年度に変更した部分となります。